令和元年度

問 総務課秘書広報係 ☎22・3111

市政報告会 質疑応答

10月1日から30日にかけて、市制施行以来14回目の「市政報告会」を開き、市内11会場で639人の参加がありました。

ことしは、平成28年熊本地震からの復旧復興の進捗状況をはじめ、市の財政状況や行政、教育委員会の取り組み、医療センターの現状等について報告した後、意見交換の時間では、会場から活発な意見等が出されました。

各会場における質疑応答の一部をご紹介します。

和田副市長

阿南教育長

阿蘇医療センター 井野事務部長

佐藤市長

乙姫地区

Q 市のホームページに平成30年の全国学力・学習状況調査の結果が掲載されており、小学生の算数などは全国平均を上回っていたが、中学生は全国平均を下回っている理由について教えてほしい。

A 教育委員会としても学力向上には力を入れており、小学校はほぼ全国平均並みの成果が出ているが、ご指摘のとおり中学校は若干厳しい状況だ。中学生の課題は、家庭学習の時間が全国平均に比べ少ない。また、中学生になると、やる気がある子、やる気をなくしてしまう子との差がでてくる。授業では、教師中心で子どもが受身という授業が多く、自分から進んで発表したり課題を解決したりという授業が少ない。このようなことから電子黒板やタブレットを使って子どもたちが積極的に授業に取り組むよう改善を指導している。また、中学校は部活動が盛んで、一の宮中・阿蘇中とも非常に強く、中には部活動を一生懸命やっていればいいという保護者の方も一部おり、部活中心であまり勉強に向かわない生徒もいる。対応として、地域未来塾を開いたり、夏休みの補習をしたりしているが、まだ成果が出ていない。中学校の授業改善にもしっかり取り組んでいきたい。【教育長】

Q 乙姫体育館は耐震化されているのか。

A 地元からの要望を受け、昨年、建物の補強をはじめ、玄関とトイレのバリアフリー化、バスケットゴールを撤去するなど、乙姫地区の避難所、住民健診等でも利用しやすいよう整備したところ。壁や基礎も補強しており、耐震性も問題はない。【教育部長】

Q 乙姫地区はゴルフ場を中心に土砂災害特別警戒区域があり、大雨の際には尻無川が氾濫し、ため池が溢れるなど住民は不安だ。乙姫川の国道57号付近は、ことしの大雨の際に護岸が100㍍ほど崩れ、現在暫定で工事が行われているが、今後どのような対策をしていくのか。

A 土砂災害警戒区域に関しては、平成28年の熊本地震を受け、阿蘇市内で63ヵ所見直し、エリアが拡大したのが53ヵ所、小さくなったのが10ヵ所である。災害復旧の工事等が進み、再度工事の経過を反映し全237ヵ所を4年かけて見直し作業を予定しており、見直しができたところから地元の方に随時説明する計画だ。今年度はこれまでに、地域振興局が説明した所は赤瀬地区1ヵ所のみ。河川管理者は、国道57号を境

応急復旧された乙姫川

とし乙姫川上流は阿蘇市、下流は県の管理になる。【県振興局土木部】

A 乙姫川の災害箇所は現在設計中で、発注準備ができたら早くて11月中に着手し左岸をブロック積に改修する予定だ。【土木部長】

黒川・役犬原地区

Q 実質公債費比率の7・5％とは財政が健全であると言えるのか。

A 平たく言えば、収入に対する借金返済額の比率と理解いただきたい。交付税、市税等収入が93億円あり、この内7・5％を借金の返済に充てているということになる。客観的に見て健全な状態ということになる。【副市長】

Q 介護分野の人手不足に対する市の方策は。

A 人手不足は深刻さが増している。介護士不足により要介護者の受け入れができない施設もある。熊本県と協力して、阿蘇地域における介護施設の応援職員として募集し、取り組んでいる。こしから熊本県と阿蘇市が協賛し、介護に関する入門的研修にも取り組んでいる。研修を受けてもらい、希望する施設に配属させる、つなぎ的な取り組みである。待遇改善が重要である。【市民部長】

Q 介護保険料の現状と今後の動向は。

A 阿蘇市の基準額5700円／月は、県内でも5番目に安い。基金をうまく利用しながら、急激な引上げとならないよう取り組んでいく。【市民部長】

狩尾地区

Q 旧尾ケ石東部小学校の跡地利用を心配している。閉校になって8ヵ月になるが、雑草も目立つようになり、校舎の解体という話も聞くが、できれば何かに利用していただきたい。

現在の旧尾ヶ石東部小学校

A 草刈は、1回刈った程度では確かに追いつかないので、委託などで対応し、区長さんとも調整して管理に努めたい。校舎の解体に関しては、阿蘇市管内統合した関係で閉校した小学校が各地区にかなりある。教育財産も含めた阿蘇市全体の遊休施設に対して、「公有地活用庁内検討会議」を立ち上げて跡地利用などの検討をしていきたい。尾ケ石東部小学校は、浸水区域のエリアになっている関係上、明確な利用検討をするうえで、かさ上げ等が必要になり、解体も費用が相当かかる。跡地利用を検討するうえで、抱えている課題も考慮しながら対応していく必要がある。利活用が明確に決まれば、地域の人への説明も必要になり、場合によってはかさ上げ等もしなければならないので、その時は報告したい。具体的には、決まっていないのが現状である。【教育部長】

Q 黒川河川上流の改修工事が進んだ影響で、狩尾3区内の水田の浸水面積が広くなり、ゴミが入り稲が刈れない状況にある。コンバインに木くずなどが入って困っている。上流の遊水地が機能していないのではないか。通常、河川改修は下流側から整備するものだ。

A 一般的に河川改修は下流側から進めていくようになっているが、黒川については河川法が定める河川整備計画に遊水地が位置付けられており、その整備を行ってきたところ。河川改修については設定されていなかった。現在、白川・黒川について河川整備計画の見直しを県と国で行っており、その中で黒川の下流部分についての河川改修を追加している。今後30年間の中で取り組んでいくということが位置付けられようと進められている。河川改修のご要望に関しては、これまでも黒川の川づくり協議会の場で地元のご意見等をいただいていて、その部分が整備計画に位置付けられることになっている。なお、具体的には、河川改修の計画については今から測量等の調査を行ったうえで計画を立てていく。その計画を立てる際には、地元の皆さまにご説明をしたうえで、事業を進めていくということになるので調査のご協力をお願いしたい。【県振興局土木部】

Q 私たちも河川敷や法面の草刈りは区をあげて少しずつ実施しているが、竹の生い茂りや土砂の堆積などで立ち入れない場所が多くある。こうした堆積物を今すぐにでも除去してほしい。河川改修もあるだろうが、その前に実施してもらいたい。

A 河川の掘削については、県が管理している

ところは県が、市が管理しているところは市が行っている。熊本地震以降、土砂の堆積が多くご要望を沢山いただいており、県が管理している黒川や乙姫川などの県管理河川で4万5千立方㍍ほど掘削している。今年度も、黒川や乙姫川で掘削しており、今後も西岳川・東岳川等でも掘削する予定。ただ、掘削をしているが上流側からの土砂の供給量も非常に多く、ご要望を沢山いただいている中で、順次手を付けているというところ。地元の方にはご心配、ご迷惑をかけているが、できるところからなるべく早くをモットーに取り組む。河川の合流点は、よく堆積をするのでパトロールを行い早めの対応をしたい。今後の掘削は、10月発注を予定しており契約が済んだら、速やかに掘削を行いたい。【県振興局土木部】

永水・跡ヶ瀬・的石地区

Q 熊本地震の影響から赤水西団地を3棟取り壊して更地になっているが、建て替えはあるのか。

更地状態の赤水西団地

A 現在、設計段階であり、更地となったところに建設する予定である。【土木部長】

Q 本日大きなイノシシと遭遇した。近所でも罠をしかけて駆除をしているがなかなか効果が上がらない。市の獣害対策は。

A イノシシ、シカ等の有害鳥獣駆除を猟友会にお願いしているが、駆除しても追い付かない現状である。年に3～4回ほど一斉捕獲も行っているが、なかなか減少しない。特に、住宅の近くでは猟銃が使用できないので、罠による駆除を行っている状況である。農地の被害対策には、防護柵の補助を行っている。捕獲隊のお願いも猟友会にできるので、具体的な相談は農政課にお願いしたい。【経済部長】

Q 来年度は国道57号の現道や北側復旧ルートの開通で道路状況が良くなるが、沿線の樹木を伐採して道路からのロケーションを良くすることはできないか。

A ミルクロードは県の管理であるが、冬季のは国と一緒に管理を行っている。民地から伸びている木については、持ち主に伐採等をお願いしている。ただし、道路にかかり通行に支障が出る場合は道路管理者で切ることもある。【県振興局土木部】

A 別の場所ではあるが景観面からASO環境共生基金を使って伐採した例もある。調査したうえで後日連絡する。【土木部長】

Q 阿蘇山の降灰による市全体の被害状況は。

A 本年の4月14日以降、阿蘇中岳第1火口は断続的な噴火を繰り返しており、降灰による影響は聞いているが具体的な被害額は現在のところ上がってきていない。総務課で、火山灰除去の道具等（簡易の手押しスイーパー）、側溝のグレーチングを外すための道具、スコップ等も用意しているため是非地域でも活用していただきたい。【総務部長】

Q 県道河陰阿蘇線の跡ケ瀬区入り口付近（大正橋から内牧方面に向かって狭くなったところ）がたいへん危険だ。見通しが悪く、震災後は交通量が増え、工事用車両も多く通る。道路上に張り出した枝はどうにかならないのか。

A 横から出ている木は、基本的に民地になると思うが、持ち主に切っていただくことが原則となる。通行の支障になる場合は、持ち主に了解をもらって木を切っている現状であるため、現地で立ち会い、できる範囲で対応していく。また、ダンプ等の通行に危険な箇所を具体的に教えてもらったうえで対応を検討していく。【県振興局土木部】

見通しの悪い跡ヶ瀬地区の交差点

Q 熊本地震の際に阿蘇西小体育館が避難所となったが、4日間停電したままだった。そこで、発電機や非常灯など停電時の設備を消防団と行政区が管理できるところに整備してほしい。

A 夜間に停電になると真っ暗になり、私たちの生活は電気がないと何もできないと言っても過言ではない。今、改めてご意見をいただいたので、市の消防関係施設を充実するために財源等を見つけながらなるべく早めに対応していきたい。市役所にも数台発電機があるので、非常時の際には必要なところに速やかに持っていく体制をとっている。【総務部長】

山田地区

Q 昨年、阿蘇医療センターで検診を受け癌が発覚したが、手術と5回ほどの通院で現在まで何の異常もない。改めて検診の重要性を感じている。

開院5周年を迎えた阿蘇医療センター

A 要検査、要治療と診断された方々が、病院に行かず重症化するケースが多い。検診で異常があれば早めに医療機関へ受診し、治療するよう心がけをお願いしたい。【市民部長】

波野地区

Q ことしの夏に農業経営のアンケート調査が行われたが回収率32％は低い。将来の波野の畑作を考えたうえで、もっと真剣に考えていかないといけないと思う。波野を4地区（東部、中部、北部、西部）に分けて、地区の人達とひざを交えた意見交換会を開いていただきたい。

A 7月末現在で回答99名、回収率32％で低い数字だと思う。今後聞き取り調査を行っていきたい。意見交換会は、検討させていただく。【経済部長】

内牧地区

Q 宮原川関連の復旧工事が長引き、湯浦方面から通学している児童は、未だに迂回路を通っている。併せて、砂防工事によるダンプカーの往来も多く、我々農家も機械の運転等に気を使っている状況だ。事故が発生する前に、速やかに工事を完了させていただくよう要望する。

A 小里新橋は12月完成を目標に進めてきたが、現在のところ2月までかかる見込み。熊本地震の影響もあり、人手不足や資材・機械高騰等により予算不足と工期に遅れが生じている。早期に完成するよう進めており、砂防工事を含め工事車両には安全に通行するようお願いしている。【県振興局土木部】

A 小里新橋の車両通行止めは12月14日まで。令和2年2月まで片側通行の予定で、年度内には完成予定。現在の進捗率は60％。【土木部長】

Q 熊本市から譲り受けた南宮原キャンプ場は、テントも張ったままで盗難の恐れもあり、機械も倉庫やハウスに入れた状態が続いているため、動かなくなるのではと心配している。利活用の検討をお願いしたい。

A 教育課で管理しているキャンプ場で、「公有地庁内検討委員会」で協議しており、活用策が決まったら地元にも相談したい。テント・機械・建物内などの現状を調査したい。【教育部長】

Q スーパーみやはら前信号から浜川付近まで避難道路ができる計画があったと思うが、どのようになっているのか。

A 平成28年の地震の影響で地盤が軟弱になっているため、道路の計画は現在のところ休止中である。【土木部長】

古城地区

Q 県道のバイパス工事にはたいへん感謝している。関連して、古城郵便局付近の交差点は、三野方面から県道11号線を宮地方面に左折する際に曲がりにくくセンターラインを越えてしまいそうになる。また、別府方面から降りてくる車は見通しが悪い上に下り坂なのでスピードが出て危ない。手前に注意看板を設置するなどの対策を願う。

A 別府方面からの通行車両が速いスピード

注意が必要な古城郵便局前の交差点

で下りてくることは承知している。また、対象の交差点も曲がりにくく見通しも悪いので良い形とは言えない。現場を再調査し、別府方面からの車に減速を促すことや、交差点があることを知らせるような路面標示など、何かいい対策があるか検討したい。【県振興局土木部】

Q 県道内牧坂梨線の古城1区から阿蘇品までについて、改良の進捗状況を伺いたい。

A 全体の1・9キロのうち、1・2キロは来年度開通予定。なお、残りの0・7キロは今年度境界立会を行っており、今後、用地交渉を予定しているが、用地買収が完了していないので、完成予定の具体的な時期はお示しできない。とはいえなるべく早期の整備に努めたい。【県振興局土木部】

Q 阿蘇医療センターの診療科が増えてきているのはうれしいが、整形外科は完全予約制となっており、他の病院への転院や十分な診察が受けられないとの声もある。整形外科が受診しやすくなることを望む。

A 整形外科の常勤医師確保については、開院時から住民の皆さまの要望を受けている。現状は火曜と木曜に非常勤医師で診療を行っている。受診された方の評判も良く、お知り合いの方へ阿蘇医療センターで受診するよう勧めていただいているが、予約枠がいっぱいでせっかく診察を希望されている方に十分な対応ができていない現状である。なお、来年4月から熊本県の事業で熊本大学病院から医師が派遣される予定であることから、阿蘇市は整形外科の医師派遣を上位に申し入れている。確約はできないが、要望が叶えば常勤の整形外科医師が確保でき、診療も充実する。今後も引き続き常勤医師の確保に努めたい。【医療センター事務部長】

Q 昨年、県道11号線工事の影響から通学路が農道へと変更になった。保護者らで確認したところ、凹凸のある暗い砂利道で水路もあり安全とは言い難い状況であったため、平坦に均し照明を設置してもらった経緯がある。今後も当農道を通学路とする予定があれば、子どもたちが安全に登校できるよう適切な配慮を願う。

A 通学路の決定は学校であるので、小中学校と阿蘇市と連携して話し合って大事な児童生徒のため、抜かりなく対応したいと考えている。工事についてはご迷惑をおかけしているが、ご存知のとおり、今回の整備は平成24年の水害時に被災した道路で、今後近隣が氾濫した場合の堤防の役割も兼ねるよう、嵩上げを含んだ道路工事となっている。工事は今しばらくかかるのでご理解願う。【県振興局土木部】

A 復旧工事に伴い、阿蘇市全体的に通学路の変更が生じている。その際は学校と保護者としっかり話し合って、子どもたちと実際歩いたうえで通学路を決めている。今回のご意見も学校側に伝え、安全確保を図っていきたい。【教育長】

中通地区

Q 長目塚古墳の学習会が一の宮小学校の5・6年生を対象に実施されたとのことだが、参加した児童の感想を教えていただきたい。また、中通古墳群は阿蘇の宝と思うので、しっかりPRして誘客に結びつけて欲しい。

A 小学生の話を聞くと、「地元にこんなすごい宝物があること、貴重な文化財があることを初めて知った」などの意見があった。子どもたちにとってたいへん貴重な経験になったと思う。【教育長】

Q 宮地方面から小嵐山に向けて道路が整備されているが、観光客が増えるとバスも増えると思う。そこを踏まえて道路拡幅をお願いしたい。

A 池田赤溝線のことかと思うが、部分的に関係者との調整に時間がかかっている。ことしも継続して行っている状況だが調整が済めば前後の道路と同様にしたい。【土木部長】

A 以前、市政報告会の中で、「8メートル道路から小嵐山に向かって細い道があるが、古墳付近を一方通行にしたら安全になるのでないか」という提案もあった。これからの道路整備はこうした意見も踏まえて検討していかなければと思う。【市長】

Q 中東部河川の南側から下原地区まで、梅雨時期にはたびたび浸水していたが、熊本県の理解と協力を得て河川工事がようやく終わろうとしている。関連してその上流の浜川が土砂で埋まっており、法面に木が生えて流れの妨げになっているので、早急な対応をお願いしたい。

A 豪雨災害、震災以降、対応が遅くなってお

り申し訳ない。ご意見の場所は現地を確認したうえで対応を考えたい。【土木部長】

河川改修が終了した中東部川

坂梨地区

Q 熊本市内まで1時間半かけて通勤している。国道57号の復旧と二重峠トンネルは2020年度中に開通との説明だが、具体的な開通時期の情報はないのか。

A 二重峠トンネルについては、年明けからトンネル内の舗装工事に着手するとの情報は得ているが、開通の具体的な時期などは明言されていない。何らかの情報を得たら市民の皆さまにも提供していきたい。【土木部長】

Q 消火栓の格納庫にホースがないため、ホースの設置をお願いしたい。

A 消火栓のホースの購入等を含め管理は各行政区にて対応していただくよう阿蘇市内全体で統一しているのでご理解願いたい。また、地元の消防団には余裕を持って消防ホースを配備しているため、火災時の対応など相談してほしい。【総務部長】

宮地地区

Q 関東、東北地方を襲った台風や豪雨災害は記憶に新しいところ。平成24年の豪雨災害では宮地地区でも排水能力が乏しく、浸水や土砂が流れ込むなどして国道57号が不通になるなどの被害も発生した。私自身自宅周辺が浸水し、近くの避難所へも行けない状況であった。地元（宮地地区）の災害対策をどう考えているのか。上流域に施設園芸や畜舎が増え、雨水が浸透し難くなっている影響もあるのではないか。今後の大雨を想定した地元対策をしっかりやって欲しい。

A 宮地地区を流れる東岳川については、流れが阻害されないよう国道57号より上流域の竹等の伐採を行っている。今後、古神橋付近の河川を掘削し、水の流れを阻害しないようにする予定。仙酔峡道路も復旧し開通したので、仙酔峡周辺の治山工事も実施されている。災害対策は、将来を見越した先手の対応が望ましいが、国・県による災害復旧事業に頼らざるを得ないのが現状である。平成24年のような豪雨災害が起きないよう対策が必要であり、地元の市職員や住民の皆さまとも意見を交わしながら対策を進めていきたい。【土木部長】

宮地・坂梨地区の異臭・畜舎問題の説明

一の宮地区の4会場では、和田副市長が「臭い問題」と「牛舎問題」の市の対応策等について、説明・報告しました。

【臭い問題】

宮地・坂梨地区の臭いは、町村合併前の20数年前から問題化しており、当時、保健所等によって調査されたが、原因の特定はできず今日に至っている。

今般、大規模畜舎建設に伴い臭い問題がクローズアップされたが、そもそも以前からの臭いを解決しなければ根本的な解決にはならないことから、次のとおり取り組みを進めている。

①宮地・坂梨地区の各地に臭気モニターを依頼し、臭いのする日・時間帯・天気・風向きなどを調査している。

②宮地・坂梨地区の畜産事業者を個別に訪問し、現状説明と改善に向けた協力を要請している。また、親会社がある企業などは関東まで市長が直接出向いて要請している。

③専門業者による正確な臭気を測定する。

④畜産事業者と行政らで連絡協議会を組織し、一体となって臭いの改善に向けた取り組みを進める。

【牛舎問題】

市に対する訴訟の経過については、お互いの争点を整理し明確にする「弁論準備手続き」が、これまで9回にわたって行われている。内容に関しては係争中のためお伝えできないが、これからも本市の正当性をしっかり主張していきたい。